



左ページ写真は昨年のプチ盆踊りの様子

このまち のゆめ

小さな盆踊りの「輪」を いずれ地域の大きな「和」に そして「まちの元気」につなげたい

「数年前に地元の青年団が活動を休止し、夏祭りがなくなりました。地域の人たちが浴衣を着る機会、人が集まって楽しむ機会が、一つなくなってしまうんです。」
平成19年8月14日、千頭駅前で「プチ盆踊り」を初めて催した中原緑さんたちは、当時をこう振り返った。
「青年団の夏祭りが開催されていたころは、お盆の時期は、それは華やかなものでした。地元の人、帰省していた人も、観光客も一緒になって盆踊りを楽しんでいました。今では、お盆に里帰りした人を連れて行ける場がなくなってしまうかもしれません。これはとても寂しいこと。自

宅で、家族や親戚とゆっくり過ごすのもいいですが、みんなが集まってワイワイ楽しめる夜が、一日くらいあってもいいんじゃないかと思っただけです。もちろん地元で。」
そこで立ち上がったのが、千頭駅前通りのお母さんたちだ。中原緑さんたち4人は、千頭駅前広場で盆踊りを催すことを思いついた。ここ千頭駅は、寸又峡・接岨峡などの温泉郷に向かう観光客も立ち寄る場所。
「たくさんの方が立ち寄る場所だからこそ、来てくれた人をもてなす気持ちも込めて企画しました。自分たちでできる範囲でやってみよう



千頭でプチ盆踊り^{8/14}を 開催するお母さんたち

みどり 秋元みのりさん、さとこ 中原緑さん、やすよ 渡邊里子さん、田畑泰代さん

話し合っただけです。以前の活気を取り戻したかった。そのきっかけになればという思いでした」と4人は語る。
平成19年夏。お母さんたちは急ピッチで企画を練った。駅前で盆踊りをやることだけは決まったが、とても4人だけでは実現できそうもない。家族や、周りの人にも協力してもらって準備を進めた。会場の手配、設営、バザーの段取り…。合間には、盆踊りの練習もした。そんな忙しい毎日を送り、迎えた8月14日。
「決して大勢ではありませんでしたが、みんな浴衣を着てワイワイ楽しむことができました。小さな子もお母さんに手を引かれて来てくれました。とってもうれしかったです。毎年続けていきたいねって4人で話しました」。

この小さな盆踊りは、今年で3年目を迎える。今年の8月14日は、さらに大勢の人に遊びに来てもらいたいと言う。
「プチ盆踊りをだんだんと地元で定着させていきたいんです。地区外の人にも遊びに来てほしい。盆踊り未経験の人でも大丈夫です。盆踊りコンテストを開くわけじゃありませんから、上手い下手は関係ありません。見よう見まねで十分です。わたしたちも皆さんと一緒に楽しみたい。それが、いずれは『地域の和』に、『地域の元気』につなげていくはずなんです。」
自分たちも楽しみながら、地域に貢献していきたいと話す4人のお母さんたち。プチ盆踊りという名前とは裏腹に、その意気込みはとてもしっかりものだった。
盆踊りという「人と人が出会い、触れ合い楽しむ場」。今年の8月14日の夜、千頭駅前

プチ盆踊りを一緒に楽しみましょう！

わたしたちと一緒に、お盆の夜を楽しく過ごしませんか。ご家族も里帰りした人も一緒に千頭前に遊びに来てください。スタッフとして盆踊りを盛り上げてくれる人も、ぜひおいでください。

日時 8月14日(日) 午後7時～ ※毎年8・14に固定場所 大井川鐵道千頭駅前広場

対象 どなたでもご参加ください。入場は無料です(バザーは有料)。盆踊りを踊ったことがない人でも大丈夫。気軽に、一緒に楽しみましょう！

